

令和1年 11月 7日

調査・研修報告書（会派個人用）

会派きずな

報告者：徳永泰臣

実施場所：周防大島町(株)ジブンのオト 大野 圭司	実施日：令和1年10月30日
■目的・課題・問題事項 ○周防大島町には年間百万人以上もの観光客が訪れています。その仕掛人(株)ジブンのオト代表 大野圭司氏のお話を聞きに行った。	
■参考とすべき事項 ○大野圭司さんは15年前に大島町にUターンし、昔から思い描いていた夢を実現するため起業家育成のためのキャリア教育をはじめた。 ○大島町は昔から教育への関心も高く、大野さんの思い「キャリア教育」は島内の小中学校に導入され、起業家の方々に学校で講義していただいたり、会社の立ち上げ商品開発・予算・決算・配当・原価計算など児童生徒にさせながら、起業への関心をもたせ、実際に現在島にUターンして起業に取り組んでいる若者もいると言う。 ○こうしたキャリア教育の成果として、目的を持ち、それを実現するため外に出て、色々な事を勉強して帰り、目標を達成する子供達が増えた。 ○キャリア教育により誘導感はあるが、選択肢として大島もあるよと話している。 ○本市として西日本一広い面積を有し、農業・林業が基幹産業で今後他市との差別化の中で生き残っていくためには、農業・林業を中心とした「キャリア教育」の導入を早期に実現していくことが重要と考える。	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） ○本市は西日本一広い面積を有し、農業・林業が基幹産業となっている。この多くの資源を活かした「キャリア教育」の導入を早急に取り入れる必要がある。 ○本市には、県立広島大学、県立農業技術大学校、庄原実業高等学校など、本市の資源を活かした「キャリア教育」を進めていくための教育機関も多くあり、それらの連携により起業家育成のプログラムを導入し、本市の特徴を活かしていくことが重要であると考え。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調 査 ・ 研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名：きずな

報告者：桂藤 和夫

<p>実施場所：キャリア教育の推進等について(山口県 周防大島町)</p>	<p>実施日：令和元年 10 月 30 日</p>
---	---------------------------

■目的・課題・問題事項 (調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など)
 ※キャリア教育で先進的な取組みをされている周防大島町の取組みについて、会派で調査と研修に伺うことにしました。

- (株)ジブンノオト代表取締役・キャリア教育デザイナー 大野 圭司 氏
- 社会プロモーター 余島 純 氏
- 周防大島町役場 産業建設部 商工観光課 体験交流推進班 田中 政彦 氏

■参考とすべき事項

- ◎東京都立日野台高校(日野市)の2年生の4クラス 156 人が修学旅行で民泊による体験交流にいられていて、そのオリエンテーションの場面を見学させていただき、その中で、「15歳までにWill(意志)を育めば、子どもたちはふるさとに集う」と言われていたこと。修学旅行生を年間4,000人(1～2泊)受け入れ、キャリア教育は「生き方のレシピ作り」であると指導され、推進されていることにより、来た時と帰る時で生徒たちの思いがかなり変化して学校長からも感謝されているとお聞きしたこと。
- ◎周防大島町の人口が1980年(昭和55年)に約3万2千人から現在、約1万6千人と半減し、2040年には約8千5百人になると予測され、高齢化率も51.88%となっている中で、キャリア教育が「夢のかけ橋(ジブンの道を探求する)」、私たち・周防大島の将来を同時に考えることを追い求められ、東和中学校の3年生に対して、ふるさとキャリア教育や起業家教育を実践される中で、UIターン(20%目標)を前提で町から出ている生徒が多いと言われ、100年続く「故郷」をつくるという思いで努力されていること。
- ◎「CREATING JIBUN」というワークシートとフリーシートを使って、①強みの自己評価②冒険プロフィール③ジブンの仕事物語④未来年表⑤企業プランニングという流れで、ジブンを視覚化し、ジブンの仕事を作ってみるという教育がされていたこと。
- ◎実際、何人かUIターンされて、ジャム、オイルサーディン、蜂蜜、パン工房など、起業されている方もおられ、交流人口100万人を目標に頑張られていることとお聞きしたこと。

■提言・その他 (本市の施策等にどのように活用すべきか など)

☆本市の最重要課題の人口減少とどう向き合うか?を掲げ、努力しているが、本市もキャリア教育や起業家教育を取り入れることを検討し、UIターンに結びつけるような施策を導入していけば良いのではないかと。

☆庄原市の魅力をもっと積極的に発信し、しっかりとした交流人口の目標や将来を見据えた計画を立て、本市の活性化に繋げていく必要がある。

調査・研修報告書(会派個人用)

会派名： きずな

報告者： 五島 誠

実施場所：山口県周防大島町	実施日：令和元年10月30日
■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） これからを生き抜くためのキャリア教育について ゲストハウス事業について	
■参考とすべき事項 ・教育民生常任委員会の行政視察でお邪魔した周防大島町に再度お伺いをし、キャリア教育の最重要パーソン、株式会社ジブンノオトの大野氏に話を伺いこれまで10年間の成果についてもお話を聞く事が出来た。 ・周防大島町で行われているアントレプレナー教育をはじめとする特徴あるキャリア教育について、やり方を創意工夫し島で自分に何が出来るかをイメージできるようになった結果、実際に徐々に島へ戻ってくる子供達が出てきた。中学3年時にたてた自分の将来像に近づく形で進路選択し帰郷してくる子供もいる。より具体的に自分の将来像を描いているため最速で学力や能力を身につける進路選択を行っている子供が印象的であった。 ・また、その際非常に重要なのが実際に島の大人たちが起業されたり定住されたりといった事案が増えてきていてそれを見える化していったことだと思う。そのため、子供達によりダイレクトに島で活躍するという事が伝わったのだと感じた。 ・空き家を活用したゲストハウスを運営されている方からもお話を伺う事が出来たが、使える空き家はこのような活用法も面白いと感じた。あまり手はかけずにある程度自由度のある、安価な宿の提供は、特にハイシーズンや家族連れ、墓参りなどに需要があるのではないか。	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） ・教育分野というのは成果が分かるまで相当な年数がかかるが、信じてやり続けていく事が大事である。その中で周防大島の事例は庄原市にも大いに参考になると感じた。すでに成果が出始めている事業であるのでうまく真似をして本市に帰郷して活躍する若者を増やす意味でも取り入れてはどうか。特にこれからの時代を考えるに、今までのような価値観というのだけは難しい。テクノロジーの急激な進歩や人生100年時代を生き抜く子供たちにどういった事を伝えなければいけないのか。大人が変わらなければいけない。 ・その中で、実際に起業や定住をした方をもっともっとフォーカスしていき、ヒーロー化していく事で子供達にも夢を描かせる事が出来ると感じた。 ・大学などとも連携し科学研究費を引っ張るなど行って起業や地域で活躍する事を学ぶことのできる機関をこしらえていく事も必要ではないか。 ・空き家活用では、古民家ホテルが非常に注目を集めており大いに期待するものであるが、合わせて安価なゲストハウスという選択肢も面白いと思う。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調 査 ・ 研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名： きずな

報告者： 林 高正

実施場所： 山口県周防大島町	実施日： 令和元年 10 月 30 日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <p>大島町でキャリア教育、起業家教育を業としている大野圭司さんの活動を実際に視察するためです。どうしてこの日に伺ったかには訳があります。実は、周防大島町では都市部の学校から修学旅行生を受け入れ、一般家庭に泊めるといふ民泊をかなり以前から行っておられます。丁度、10月30日は、ある都立高校から150数名の修学旅行生を受け入れると聞き、大野さんがオリエンテーションで実際にキャリア教育、起業家教育のさわりを話されると伺ったからです。そして、ジャムズガーデンの創業者の一人である白鳥文明さんのお話を聞き、意見交換するため。</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>大野さんのオリエンテーションは予想とはかなり違ったものでした。一言でいえば、「周防大島町を大好きになって帰って欲しい」というもので、彼の島に対する熱い思いをガンガンと生徒たちに伝えていました。それは一方的ではなく、生徒にも意見を出してもらう双方向でのやり取りで緊迫感がありました。生徒は最初、「何で田舎の島に来る意味があるの？」って態度でしたが、知らない間に大野マジックにかかり、島を楽しむ、その気にさせられていました。オリエンテーションの後、彼の事務所で正式な講義を受けたのですが、彼の現在のメインの仕事は、周防大島町の小中学校での120時間程度のキャリア教育の担当や複数の高等学校等での講師や大学での非常勤講師を務め、研修会や講演会も年間40回を超え、挑戦と研究を重ねておられます。彼の信念は、小学生時代から自分の将来の夢を実現するにはどうしたらいいかということ徹底的に擦り込むことだそうです。卒業して周防大島を一旦離れても、周防大島に戻ってくる気持ちにならせるキャリア教育を天職と信じておられますが、彼ならできると私たちも頷いた次第です。</p>	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>庄原市でも都市部の修学旅行生を受け入れています。周防大島町が行っているオリエンテーションのやり方を勉強してみたいか、徹底的に庄原市を好きになって貰うにはどうすればよいかを考えれば、徹底的な庄原市の掘り起こしになると思います。そして本題のキャリア教育、起業家教育ですが、やはり、学校現場に実際に大野さんに入って貰い、実践してもらいたいと思います。ただ、既に教育民生常任委員会では周防大島町の学校現場の視察に行かれていますので、一度、全議員が揃う場で、感想を聞かせてもらえれば、より理解は深まると思います。</p> <p>白鳥さんのゲストハウスに宿泊したのですが、これは一種、空き家対策でもあるそうです。観光客が増えてくれば、安く泊まれるところが喜ばれます。特に外国人のバックパッカーには。メインはジャムズガーデンのお話だったのですが、白鳥さんが芸術家であったことが成功の一つの要因であったと感じました。お店の2階にこじんまりとした展示スペースがありましたが、お茶した後のお楽しみという雰囲気良かったですね。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書(会派個人用)

会派名：きずな

報告者：山田 聖三

実施場所：山口県大島郡周防大島町	実施日：令和元年10月30日
■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状など） ・キャリア教育及び起業家教育について	
■参考とすべき事項 キャリア教育デザイナーで株式会社ジブンノオト代表取締役大野圭司氏の実践に学ぶ。 ○プロフィール 1978年周防大島町（旧東和町）に生まれる。実家は土木建設業を代々営むが、「島おこしを仕事にしたい」と決意。大阪芸術大学にて、「周防大島での定住リゾート」に関する卒業制作を行った。その後、建設コンサルティング会社（大阪）、Webサイト制作会社（東京）を経て、2004年に周防大島へUターン。フリーペーパー「島スタイル」を創刊。起業家育成塾「島スクエア」（大島商船高等専門学校主催・文部科学省補助事業）の立ち上げに参画し、運営に携わる。2013年には、株式会社ジブンノオトを設立し代表取締役に就任。キャリア教育に起業家教育を取り入れた独自のスタイルによるセミナー等を開催。現在、周防大島町立小中学校キャリア教育非常勤講師、山口大学国際総合科学部PBLアドバイザー等 ○起業家教育の必要性 おおよそ半分の労働人口が人口知能やロボットなどに代わってしまう未来に向けて、どのような対策があるか。その1つとして教育課程に起業家教育を組み込むことではないか。起業家教育とは、決して起業家や企業経営者だけに必要な特殊な教育ではない。高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら新しい価値を創造する。これからの時代を生きていくためには、起業家精神と起業家的資質や能力を育成するための教育が必要である。 大野圭司氏の周防大島をより良くしたい、100年先を見据えたふるさとづくりへの熱い思いに触れることができた。	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） 地域や社会の課題をビジネスチャンスとして捉え、あえて、ここで生きるといった人材の確保及び育成が重要である。そのための1つとして、学校教育の中での起業家教育の必要性を強く感じた。	